

更生支援活動の受け入れ態度に影響を及ぼす 感情・認知要因

○讃井知¹・上市秀雄²

(¹筑波大学大学院システム情報工学研究科・²筑波大学システム情報系)

キーワード：更生，市民，意思決定

The effects of affective, cognitive factors on attitude of social reintegration support

Sato SANAI¹, Hideo UEICHI²

(¹Graduate School of Systems and Information Engineering, University of Tsukuba,

²Faculty of Engineering, Information and Systems, University of Tsukuba)

Key Words: regeneration, citizen, decision-making

目 的

近年、一度罪を犯した人の社会復帰を支援する更生支援の重要性が問われている。更生支援の中核とも言える保護観察制度は市民のボランティアである保護司が支えているが、保護司制度は高齢化と人員不足が問題となっている。

また、更生支援対象者を受け入れる社会に誤った認識や偏見が蔓延していると円滑な社会復帰の妨げとなる可能性がある。保護観察の効果を最大化するためには更生保護関係機関だけではなく、社会復帰後に保護観察対象者が関わりあう雇用先や生活環境において理解をえられるように環境を見直さなければならない。(小俣・島田)2011)

よって保護司制度の継続、ならびに保護観察対象者の円滑な社会復帰・保護観察の効果の向上のどちらにとっても第三者の立場の人々からの理解・協力が必要である。

そこで本研究では、この現状を把握するために、1. 更生支援活動について一般市民がどの程度認識しているのか。2. 更生支援活動に対する考えに影響を及ぼす認知・感情要因はいかなるものか。の二点を、今後の社会制度を支える若者世代の男女を対象に調査をする。そして、どのような要因を改善していけば保護司制度に関する理解を得ることができ、社会復帰の円滑化さらには再犯率の低下に結び付けることができるのかについて検討する。

方 法

【調査】2014年11月、関東地方の大学生に質問紙を配布し、210名(男153名 女54名 不明3名)の回答を分析に用いた。

【質問項目】**情報源**(家庭で刑事事件加害者に対する処遇についての話題がでたことがありますか等、2因子8項目)、**知識**(保護司という言葉を知っていますか等、2因子12項目)、**保護観察制度に対する評価**(保護観察は収容期間を満了せずに社会復帰をすることであるため犯罪被害者の感情を考えると不適切な制度だと思う等、3因子16項目)、**保護司に対する評価**(保護司をしている人は立派だと思う等)2因子13項目)、**保護観察対象者に対する評価**(過去に犯罪や非行を犯したからといって罪を償った後も差別的な目で見るとはおかしいと思う等、3因子、16項目)、**更生支援活動への参加意向**(私は将来保護司として活動したいと思う等、4因子、22項目)からなる。項目は5段階で評定した。

結 果

前述の質問項目を因子分析(最尤法、プロマックス回転)した。その結果、仮説通り16因子が得られた。

各因子の下位項目について、性別の差異を確認するためにt検を行った。その結果、知識に関して男女差が認められた(例：女性(M=2.60)は男性(M=1.67)よりも、保護司は非行や犯罪を行っている人の生活指導をしていることを知ってい

た。 $t(205)=-4.47, p=.000$)。また、保護観察制度・保護司・保護観察対象者への評価を訊ねる項目においてポジティブな項目で男女差が認められた。(例：女性(M=3.61)は男性(M=3.06)と比べて、過去に犯罪や非行を犯したからといって罪をつぐなった後も差別的な目で見るとはおかしいと考えていた。 $t(205)=-3.07, p=.002$)。また、参加意向に関しても女性は男性に比べて積極的な傾向があることが分かった(例：女性(M=3.35)は男性(M=2.78)より、自分の身に危険が及ばないのであれば更生支援してよいと考えていた。 $t(204)=-3.34, p=.001$)。

次に16因子の各下位項目を合計した合成変数を用いて、階層的重回帰分析を行った(図1)。その結果、男女共通して保護観察対象者にとっての“効用”への評価が更生支援に対する肯定的態度に影響をあたえていた。男性は“保護司の人間性支持”“保護観察対象者への不安”が、女性は“制度の周知の必要性”を感じているかどうかや“保護司の不安・ストレス”が参加意識に影響を与えていることがわかった。

考 察

本研究の結果より、女性の方が男性より更生支援に関する知識を持っており、肯定的な評価や参加意向を持っていることがわかった。また、男性に対しては特に、対象者への不安の低減につながる情報や保護司の活動の正しい情報、女性に対しては特に、保護司のコスト等を低減させるような情報、そして男女ともに保護観察対象者が立ち直った事例等を伝えることが、更生支援活動に対する周囲からの理解・支援を促進するために有用なのではないかということが考えられる。

引用文献

小俣・島田(編者)(2011). 犯罪と市民の心理学 北大路書房

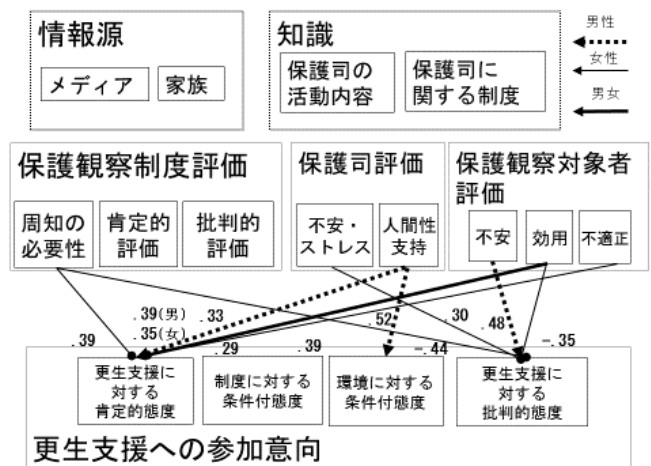


図1 更生支援に影響を及ぼす各要因間の関連性